

事務事業評価シート(平成22年度)

(施設の維持管理)

(A面)

1 事務事業の概要 <Plan①>		担当課		課長名	記入者
		教育総務 課		萬浪佳隆	徳平みゆき
事務事業名		新規・継続	事業開始年度	完了予定年度	
図書館施設管理事業		新規 ○ 継続	15 年度 H20以前	年度 ○ 未定	
事務事業の体系					
計画 掲載	多可町総合計画	(章) 2 笑顔でつむ、あったかいまち	(節) 2 学ぼう、活かそう		
	個別計画	(基本計画) 生涯学習を推進する			
根拠法令・条例・要綱等			事業区分(該当する区分に「○」)		
多可町図書館条例			ソフト事業	○ 施設の維持管理	
			義務的事业	内部管理事務	
事務事業の具体的内容			建設・整備事業	計画などの策定	
図書館を安全に利用していただくため、適切な施設管理を行う。				補助金の支給	有 ○ 無
				委託	全部委託 ○ 一部委託 委託なし(全部直営)

2 事務事業の目的 <Plan②>		
対象 (働きかける相手・誰が・もの)	受益者 (誰を・何を)	意図 (どういう状態にしたいのか)
図書館	住民	点検等を行い、適切に管理する

3 事務事業にかかる予算細目 <Plan③>										会計名	一般	会計		
細目名	図書館運営事業				細目名					細目名				
予算 コード	款	項	目	大事業	予算 コード	款	項	目	大事業	予算 コード	款	項	目	大事業
	10	5	3	1										

4 事務事業実施にかかるコスト <Do①>									
事務事業・人員			単位	21年度 決算	22年度 実績(見込)	23 年度 計画	備 考 (全体事業費など)		
総 コ ス ト			千円	3,727	3,682	3,678			
コスト の内訳	直接事業費			1,947	1,363	1,359			
	所属内間接費			65	44	44			
	人件費			1,715	2,275	2,275			
	投入人員	正職員 嘱託員	人/年	0.20	0.30	0.30			
財源 内訳	国・県支出金		千円						
	地方債								
	その他特定財源								
	一般財源			3,727	3,682	3,678			

5 事務事業の手段<Plan④>と活動指標 <Do②>							
事務事業を構成する業務		手段 (事務事業整理シートより)	活動指標 (手段の数値化)	単位	21年度 実績	22年度 見込	23年度 目標
1	館内清掃業務	業者委託により	清掃回数(開館日数)	回	258	256	256
2	夜間警備業務		警備日数	日	365	365	365
3	電気保安業務		点検回数	回	12	12	12
4	消防設備保守点検 業務		点検回数	回	1	2	2
5	敷地の草刈り業務	社協と交代で職員により	草刈り回数	回	5	5	5

(施設の維持管理(B面))

6 事務事業の実績 <Do③>		事務事業名 [図書館施設管理事業]			
成果指標(意図の数値化)	単位	21年度 実績	22年度 実績(見込)	23 年度 目標	備 考 (成果指標の考え方・計算方法)
貸出者数	人	32,914	34,060	35,080	
貸出冊数	冊	171,755	177,124	182,500	

7 事務事業の事後評価 <Check>			(施設の維持管理事業)				
チェック項目			該当項目に「○」			担当の把握している課題	
必要性	需要への 対応性	受益者(利用者)の割合は	高い	○ 高くない		把握なし	施設が老朽化しており、適切な管理が必要である。 生涯学習関係施設との統合は可能である。
		利用者・対象者数は	増加		減少	○ 横ばい	
妥当性	連携の 可能性	他の施設と連携・統合できる可能性は	ない	○ ある		あるが困難	
		民間や他の行政機関と連携できる可能性は	ない	○ ある		あるが困難	
		市民団体・ボランティアなどと協働できる余地は	ない	○ ある		あるが困難	
効率性	手段・ プロセス の効率性	事務事業を構成する業務に見直しの余地は	ない	○ ある		委託できるところは委託し、長期契約等での経費削減も実施している。 しかしながら、老朽化による修繕が目立ってきている。	
		コスト削減の観点から実施方法を見直す余地は	○ ない		ある		
		業者選定や契約方法の変更によるコスト削減の余地は	ない	○ ある			
有効性	持続の 可能性	継続することによる効果は	○ 高い		高くない	図書館法により利用料は徴収できない。 住民生活の動線上にない。	
		歳入確保を検討する余地は		ある	○ ない		
		環境に配慮されて		いる	○ いない		
市場化の可能性		更なる委託化の余地あり		○	更なる委託化は不可能		
		指定管理者制度を検討する余地あり		○	指定管理者制度を検討する余地はない		
改善の可能性			1.改善の余地はない		○	2.改善の余地がややある	
			3.改善の余地が多い			4.抜本的な見直しが必要	

事務事業評価書

8 改善提案と今後の改善の方向性 <Action>図書館施設管理事業

職場からの意見(担当者)									
(課題の解決についての提案など) 施設の老朽化に伴い、より安全性への配慮や適切な管理が必要となっているが、維持管理費がかさんできている。									
担当課長評価									
(課長としてこの事業をどのようにしていきたいか) 施設としての老朽化が進み、早急に新しい図書館が必要(合併特例債を利用するならばH26年度)。それまでは修繕で持ちこたえ、現在の住民サービスの維持を図りたい。									
所管評価		1. 重点的に継続		2. 現状のまま継続	○	3.内容を見直しながら継続		4. 縮小を検討	
		5. 統合・連携を検討		6. 休止・廃止を検討		7.終了・完了	内部評価		3
教育長評価									
(教育長としてこの事業をどのようにしていきたいか) 老朽化が進んでいる図書館を今後どう整備していくか。今後の図書館のあり方を引き続き検討していく。									
事業評価		1. 重点的に継続		2. 現状のまま継続	○	3.内容を見直しながら継続		4. 縮小を検討	
		5. 統合・連携を検討		6. 休止・廃止を検討		7.終了・完了			
評価委員コメント									
今後は現状を維持しつつ、図書館のあり方について積極的に検討を図られたい。									